

愛視協だより

発行 愛知県視聴覚教育研究協議会

事務局 名古屋市東区東桜1-13-3

NHK名古屋放送局内

TEL (052) 952 - 7293

第59回 東海北陸地方放送教育研究会 第53回 愛知県放送教育特別研究大会

研究主題 「未来を拓く学びの場を創造しよう」



期 目 令和3年8月24日（火）
会 場 ウィンクあいち（映像配信、オンライン会議）
主 催 NHK名古屋放送局・全国放送教育研究会連盟
東海北陸地方放送教育研究協議会・愛知県視聴覚教育研究協議会
共 催 NHKサービスセンター
後 援 文部科学省・厚生労働省・内閣府・愛知県教育委員会・名古屋市教育委員会
名古屋市教育会・愛知県教育振興会・日本教育公務員弘済会

第53回愛知県学校視聴覚教育研究大会 令和2・3年度海部地方教育事務協議会委嘱研究協議会

研究主題 「自他を認め、生き生きと学び続ける児童の育成
～ICT機器を効果的に活用した実践を通して～」

日 時 令和3年10月27日（水）
場 所 大治町立大治小学校
講演会 講師 岐阜聖徳学園大学教授 玉置 崇 様
演題 「『自他を認める子どもを育てるICT活用』の価値」

GIGAスクール構想における意義と現状と課題について

講師

一般社団法人 日本教育情報化振興会名誉会長
一般社団法人 ICT CONNECT21会長
東京工業大学名誉教授

赤堀 侃司 氏

2019年末に閣議決定された一人一台端末、どのように運用していったらよいか。「主体的・対話的で深い学び」の理念をもとにICTがどのように関わるか。道具としてICTをどのように活用するとよいのか。教育工学者としての豊かな知見をもとに教育の情報化推進のため指導的立場でご活躍されている赤堀侃司氏を迎えて、GIGAスクール構想における意義と現状と課題についてZoomによるオンライン講演が行われた。

まずはじめに、白黒の画像がスクリーンに映された。白と黒のまだら模様は、一見何も意味をもたない画像であるが、私たちはZoomチャット機能を用いて「公園ではないか」「犬が見える」など様々な意見を出した。赤堀氏は、この画像と私たちの反応から主体的な学びとICTについて話題を展開していった。講演内容は以下の通りである。



「意味が分からない画像でも人は意味をもちたくなり、自分なりに解釈して納得しようとする。これがまさに主体的な学びとなる。というのも子供は、これまでの生活の中で培った素朴概念もっている。これを使って意味を作り出そうと自分で考える。この自分で考える力を導くことで主体的な学びへとつながるのである。そこで、ICTの活用として、例えばタブレット端末で写真を撮りそこにメモ書きをすることが有効である。知識を獲得し、その写真からなぜだろうと考え主体的な学びへとつながっていくことになる。

対話的な学びとは、他との対話によって振り返り、気づきが生まれ、そこから他を受け入れ、新しい自己に進化することである。ゲーゲンは、「他を通して自分を知る」と言う。タブレット端末は、自分の動きを録画し自分で見ることや、グループの意見を聞くことができる道具となる。そこで、相手から学び、自分自身を知ることができる。

深い学びのポイントは、知識を相互に関連付けることである。様々な知識を線でつなぎ合わせ、総合的な判断ができるようになることが深い学びとなる。プログラミング教育では、自分の考えをプログラムとして見える化することで気づき、何度もやり直す中で最適なプログラムを導き出せる。また、思考ツールを活用することで、ばらばらな知識を関連付け「見える化」することで、構造的な知識である深い学びができる。さらに、教師は深い学びに導く過程で、自己肯定感をもてるような指導を目指すべきである。

何事も困った場合には、道具を積極的に使うべきである。道具の役割は学びを支援する(AID)ことである。ICTを積極的に活用して学習を促進してほしい。

ICT活用の基本は、「子供が主体の授業デザイン」をすることである。子供の発達段階を見極め、低学年は手書きなど直感的操作から、文字変換、ローマ字入力、そして写真などを取り込み加工するなどICTの活用を深め、子供の表現力を高めることが重要である。また、画像に自分の考えを書き込むことで自分事の学習につながる。共同編集を行うことで、他から学ぶことや役割分担の必要性に気付くことができる。そして、子供が主体となるために一人一台端末のアカウントとパスワードが配付されている。これは、子供自身に自立と責任が求められる、いわば「元服式」と同じである。」

GIGAスクール構想は、子供一人一人が自立し、主体的に学んでいくことを一人一台タブレット端末で保障することであるという言葉で講演を閉められた。

- 提案者** 豊岡 真由（名古屋市立松原小学校）
山口 諒（金沢市立夕日寺小学校）
- 助言者** 杉山 祐子 氏（中部学院大学短期大学幼児教育学科）

2名とも小学2年生の生活科で「おばけの学校 たんけんたん」(NHK for School)を視聴した。

提案1では「見て、聞いて！〇〇はかせの発表会」と題し、花や野菜を育てる実践と町探検の実践の紹介があった。野菜の生長記録をとり、疑問に思うことをテレビ電話で野菜名人に質問したり発見した「ひみつ」を友達に発表したりした。葉の細かい毛の写真をタブレットで拡大したり、見てほしい箇所を丸で囲んだりICT機器を活用した実践だった。町たんけんでは、動画撮影を行った。動画の一時停止機能を使って丸や矢印を書き込んで発表会を行った。ICTを情報の収集や発信の場で活用することで、よい気付きを友達と分かりやすく伝え合う姿がみられ、他の野菜や自分の町について気付きを深めて生活に生かす姿があった。



提案2では「やさしい生きものはっけん 大さくせん！」と題し、野菜を育てる実践とビオトープで生きもの探しの実践の紹介があった。野菜の生長を写真で撮り、教室での観察も行った。野菜の「ミニ観察カード」には発見した小さな変化や成長を絵と短い文で書き、教室内に掲示することで児童が見合い意欲につながっていた。また、ビオトープで生きものの写真を周辺のものと一緒に撮ることで、住処や環境について調べ、経験や知識と照らし合わせることができた。写真はロイロノートの提出機能を活用した。導入や展開、終末の段階でICT機器を取り入れる場面を工夫したことで、児童の関わり合いが自然と生まれた。

助言者からは、「“はかせ”というキーワードが子どもの好奇心をくすぐり自信になる」、「『ひみつ』を他者へ伝えたい意欲につながっている」、「記録をとる条件として共有するための決まりごとを決めること」、「ミニ観察カードを共有することで個人で新しい変化の発見につながる」などの助言をいただいた。

子どもは出会ったもののすべてに心を動かされる。本物や変化するものにふれ、体験を通して感性が豊かになり、思考力・判断力・表現力が身についていく。なぜ？と問いかけ続けていきたい。

- 提案者** 田村 慎悟（名古屋市立呼続小学校） 服部 竜也（弥富市立日の出小学校）
糟谷 昌輝（西尾市立鶴城小学校） 高岡 祐輝（大野市開成中学校）
- 助言者** 福井 一道 氏（名古屋市立宮根小学校）

提案1では、多様な考えをもって課題を解決しようとする児童を育てるために、NHK for Schoolを使った実践が報告された。雨雲レーダーから、台風の動きの手掛かりになるシーンに絞った動画視聴により、子供は予想を立てやすくなり、思考ツールを使った意見共有により、多様な考えを共有し、主体的に課題を解決させることができた。

提案2では、ICT機器を使って主体的・対話的・深い学びを目指した学校の取り組みが報告された。大型電子黒板やタブレット端末の活用による相手意識に気付き、対話が生まれる取り組み、情報モラル教育を懇談会に生かす取り組みが報告された。

提案3では、NHK for Schoolを使って、主体的に活動に取り組み、一人一人が計画・実行・発表することができる児童の育成を目指した特別支援学級の実践が報告された。おもちゃ作りや実験において、キーワードを使って気に入った動画を探したり、SKYMENUの「発表ノート」の機能を利用し、フローチャート形式で発表したりすることで、個別に興味のあるものに取り組むことができた。

提案4では、ICT機器を「いつでも・どこでも・だれでも」手軽に使える環境づくりから、主体的・対話的で、深い学びの授業づくりを目指した取り組みが報告された。環境整備では、4つの活用方法をまとめ、「ICT Technic for iPad」として集約したアプリや活用例の表や、タブレット端末の実践において、これからの情報活用の実践力や情報モラルの重要性を明らかにした実践の報告がされた。

質疑では、一人一台タブレット端末の設置のために、どのように児童に指導していくか、持ち帰りのルールはどのようにしていくとよいかなどの質問が出された。導入段階の学校が多く、各市町村で、環境整備や指導計画が進められていることが明らかになった。

助言者からは、「デジタルコンテンツとICT機器を使い、教材と教具として、「分かる」「できる」授業づくりを進めていくこと。一人一台タブレット端末を教員一人の努力ではなく、学校全体の力を結集させることで活用させ、保護者の連携を促し、子ども自身の学びに火を灯していくことが大切である」との助言があった。

- 提案者** 谷川 翔一（名古屋市立橘小学校） 江口 諒介（岩倉市立岩倉南小学校）
鈴木 広樹（岡崎市立額田中学校）
- 助言者** 関口 実氏（名古屋市立有松中学校）

提案1では、行動の善悪を自分で判断できるモラルの素地を養う実践が報告された。「リアルとネットのコミュニケーション方法の違い」や「人を楽しませるフェイクニュースと人を困らせるフェイクニュースの違い」について、児童が対話を通して考えた。児童の多様な考えを思考ツールのベン図を用いて整理することで、互いの意見の相違点を見つけ、対話を通して自分の考えを再構築したり、考えに自信をもったりすることができた。

提案2では、安全にインターネットを利用し、実生活に生かす力を養う実践が報告された。「架空のSNSに投稿された資料の活用方法」「学び合うことを大切にしたい授業展開」「オンライン授業の実施方法」の有効性が報告された。特に、昨今の社会情勢に関連した「オンライン授業」については、学級での練習から各家庭での実施までの流れについて、多くの参加者から提案や質問があった。児童は、実際に一人一台のタブレットに触れ、使ってみることで、情報社会の利便性や危険性に気付き実生活に生かそうとする姿勢が身に付いたようだった。

提案3では、「SNSにおける適切な言葉遣い」について、生徒が自分の考えをもてる力を養う実践が発表された。NHK for schoolの映像資料を使うことで、動画の登場人物が体験するSNSでのトラブルを自分のことのように捉え、問題解決の方法を小グループで対話を通して考えていた。また、考えをデジタルワークシートで可視化してから話し合い活動を進めることで、「多様な意見を知りたい」という、学びに向かう力が生徒たちの間で発揮されたとのことだった。

助言者からは、一人一台のタブレットが学校から無料で貸出されることをふまえると「学校が情報モラル教育に責任をもつ時代に入り、学校には情報モラル教育を進めることが求められる」ということだった。そこで「教師は、児童や生徒に情報モラルの知識を与えるために、NHK for schoolの映像資料や文部科学省が作成している映像資料を活用し、情報モラルについて考える必要性も実感させるとよい」という助言があった。また、映像資料を通して気付いた問題について、他人事から児童や生徒に自分事として捉えさせるための技術もこれから教師に求められるということだった。

- 提案者** 金尾 剛志（愛知県立西春高等学校） 中島 浩平（愛知県立豊田南高等学校）
長谷川仁嗣（石川県立飯田高等学校）
- 助言者** 富安 伸之氏（愛知県総合教育センター研究部経営研究室）

提案1では、一人一台タブレットPCを用いて、物理・化学における授業効率の改善や深い学びを含む授業実践を行った。YouTubeでフィギュアスケートの超高速スピン映像を用いて学習の動機づけを行い、波の式の作り方では、生徒同士の教え合いによる「気づき」を重視し、アフターフォローとして自宅でYouTube動画で詳細な確認できるようにした。「結晶格子」の単位格子の充填率を計算する授業では、結果の予想後、3～4人班に分かれて主体的・対話的活動を行った上で、3Dモデルを視覚的に捉えられるスライドと計算アプリを用いて説明した。結果として、学習効率が上がり、アクティブラーニングを展開しながら、解説まできちんと行うことができることが分かった。

提案2では、昨年度「プラスチックゴミによる環境汚染」をテーマに、身の回りのもので状況を打破できないか、他国の人々と一緒に考え学び、現実社会につなげるプロジェクトを行った。1年生が世界8か国の人々と交流し、マイクロソフトFlipgridなどのアプリを用いて、生徒が自宅で動画を投稿してflipped classroomに集い、海外の人々と意見交換をした。そして、生徒が手作りしたエコバッグを海外に送ることができた。生徒が英語で意見を述べるには、やはり楽しさと挑戦が大切で、最終課題として一人でプレゼンができるようになった。今では世界650人の先生たちがファシリテーターとなり、SNS上の40のブレイクアウトルームに集い、英会話で多様なテーマでの意見交換をしている。怖じ気づく生徒の背中を押すために、SNSを用いて環境を整えることが大切である。

提案3では、「生徒」がスマホなどの情報端末を文具的に活用するマインドとスキルを身につけるにはどうしたらよいか。石川県の半島の先にある穏やかだが消極的な生徒たちに、「総合的な探求の時間」に一人一台のChromebookを用意し、Google Workshop for Educationの数々のアプリケーションの使い方を、実践を交えながら紹介し、自分自身で学び方を考え、選択し、学習を進めるように促した。

その結果、生徒が自分のアカウント名やパスワードを定着させ、ログイン／ログアウトをスムーズに行うことができるようになった。そして、学びのためのツールとしての有効性を意識づけられ、生徒自身の学び方が多様化していったと考えている。

助言者からは、ICT機器の活用について、まずやってみることが大切であり、ICTを効果的に活用する場面とあえて活用しない場面の組み合わせる、つまりAIと知識習得を中心とした学習とのバランスを考えながら、各教科の学びを深めその本質に迫り、社会問題の解決や夢の実現につなげていってほしいということだった。

第25回視聴覚教育総合全国大会 第72回放送教育研究会全国大会 合同全国大会

大会テーマ 「ネットワーク社会におけるメディアとヒューマンコミュニケーション」
期 日 令和4年1月22日（土）

本年度も、新型コロナウイルス感染症の影響を考慮し、Zoomを用いたオンライン開催であった。ただ、本年度はオンライン開催を前提に計画が進められており、7つの実践発表、6つのワークショップセミナー、8つの公開園、公開校からの取り組みと授業研究協議と盛大に全国大会が開催された。

全国で進むGIGAスクール構想、まったなしの教育現場における一人一台端末や、オンラインを活用した実践とともに、より切実感が増しているメディア・リテラシー、情報モラルなど、多くの実践発表が行われた。

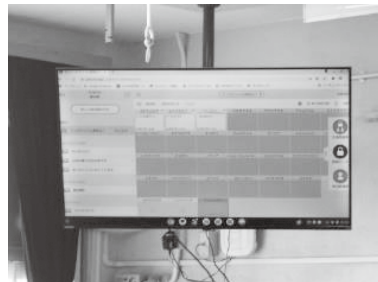
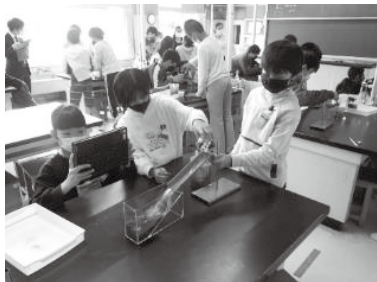
2年目となるオンライン開催は、放送教育、視聴覚教育のオンラインでの存在感を示すものとなった。

第53回愛知県学校視聴覚教育研究大会 令和2・3年度海部地方教育事務協議会委嘱研究協議会

- 1 日 時 令和3年10月27日（水）
- 2 場 所 大治町立大治小学校
- 3 研究テーマ 自他を認め、生き生きと学び続ける児童の育成
～ICT機器を効果的に活用した実践を通して～
- 4 講演会 講師 岐阜聖徳学園大学教授 玉置 崇 様
演題 「『自他を認める子どもを育てるICT活用』の価値」
- 5 概 要

(1) 授業公開

特別支援学級を含む32の学級で公開授業が行われた。導入、意見交流、振り返りなど、それぞれの授業の展開に応じて、「ロイロノート」「スクールライフノート」「Google Jamboard」「Google Meet」などのアプリを効果的に活用している実践が多く見られた。カメラ機能を使って、理科の実験の様子を動画撮影し、変化の様子について動画を止めながら確認する場面もあり、タブレットの有効性を実感できる公開授業であった。



【授業でICT機器を活用している様子】

(2) 協議会

協議会では大治小学校での2年間の研究について基調提案が行われた。ICT機器の活用は時代の要請としつつも、人は関わり合って生きていくものであり、自己を受容し他者を認める心の土台がなければ、その効果的な活用が図れないとの立場から、今回の主題が設定されたことが説明された。

ICT機器に関する職員研修やタブレットの活用研修の実施、学年にICT教育担当を設け、課題解決や情報交換を行うなど、教員側の意識改革やスキルの向上を図ることで授業での活用機会が増え、それが効果的な活用につながっていったとの報告があった。教員が「何ができるか」を理解し「まずやってみる」という意識をもって実践を積み重ねていくことの大切さを改めて感じた。

(3) 記念講演

中教審が打ち出した「令和の日本型学校教育」のポイントとなる「自分のよさや可能性を認識」「他者を価値のある存在として尊重」「多様な人々と協働」、それを実現するための「ICTの活用」、これらを取組む実践として大治小学校の研究は価値のあるものであるとの講評があった。

講演では、GIGAスクール構想によってタブレット端末が一人一台配付されたが、このタブレット端末を特別なものとせず、筆箱と同じように、場所を選ばず常に持ち歩く文房具として扱うことを目指していくことが必要との話があった。

第38回 NHK杯 全国中学校放送コンテスト愛知県大会

令和3年7月3日（土） NHK名古屋放送センターにてデータ審査で開催

7月3日（土）県下から多数のエントリーを受け、録音・データ審査にて第38回NHK杯全国中学校放送コンテスト愛知県大会が行われた。「ラジオ番組部門」3作品「テレビ番組部門」4作品「アナウンス部門」25名「朗読部門」35名のエントリーがあり、これまで培ってきた力を出し切った成果を競い合った。結果は、下記のとおりであった。

ラ ジ オ 番 組 部 門

- 最優秀** 名古屋市立神丘中学校
「親友の守り方」
- 優 秀** 名古屋市立大曽根中学校
「突撃！みんなの朝ごはん」
- 優 良** 岡崎市立新香山中学校
「体育大会のあの日」

テ レ ビ 番 組 部 門

- 最優秀** 椋山女学園中学校
「通学かばん！改良計画！」
- 優 秀** 岡崎市立北中学校
「それは正しい選択？」
- 優 良** 岡崎市立新香山中学校
「コロナを越えて～合唱コンクール」
- 入 選** 名古屋市立神丘中学校
「文章題なんて嫌だ！」

ア ナ ウンス 部 門

- | | | |
|------------|---|--|
| 最優秀 | 椋山女学園中学校 | 高 木 宥 里 |
| 優 秀 | 椋山女学園中学校
金城学院中学校 | 川 上 紗津貴
糟 谷 美 月 |
| 優 良 | 名古屋市立神丘中学校
椋山女学園中学校
名古屋市立神丘中学校 | 北 浦 心 晴
根 本 紗 妃
水 城 花 蓮 |
| 入 選 | 南山中学校女子部
金城学院中学校
名古屋女子大学中学校
名古屋市立神丘中学校 | 上 原 千 花
伊 藤 小百合
武 田 め い
杉 山 穂乃香 |

朗 読 部 門

- | | | |
|------------|--|--|
| 最優秀 | 日進市立日進西中学校 | 岡 田 奈 々 |
| 優 秀 | 名古屋市立神丘中学校
椋山女学園中学校 | 鎌 田 美 紀
水 谷 有 来 |
| 優 良 | 名古屋女子大学中学校
愛知淑徳中学校
南山中学校女子部 | 杉 森 葵
柴 田 夢 羽
馬 淵 琴 野 |
| 入 選 | 名古屋市立神丘中学校
名古屋市立神丘中学校
岡崎市立岩津中学校
金城学院中学校 | 清 水 ほのか
幡 川 心 晴
鈴 木 杏
宮 地 瑚乃羽 |

第38回 NHK杯 全国中学校放送コンテスト全国大会

予選 令和3年8月7日（土）・8日（日） 会場 NHK放送センター
決勝 令和3年8月17日（火） 会場 千代田放送会館

全国大会では、県大会で優良賞以上が全国大会にデータでエントリーし、次のような素晴らしい結果を残した。

ア ナ ウンス 部 門

- 入 選** 椋山女学園中学校 川 上 紗津貴

朗 読 部 門

- 入 選** 椋山女学園中学校 水 谷 有 来